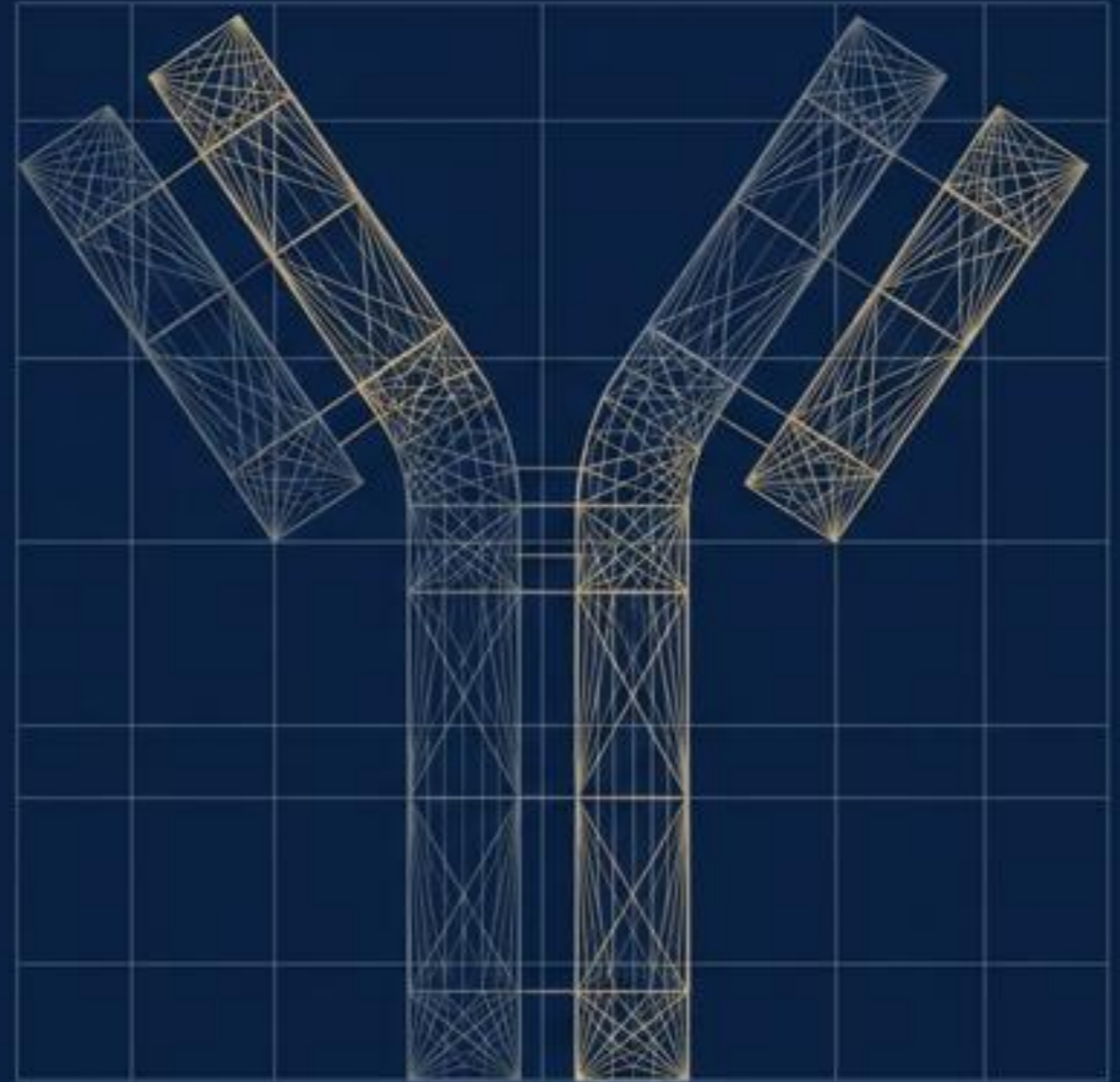


事業計画及び成長可能性に 関する事項

株式会社ペルセウスプロテオミクス



本資料の取扱いについて

- 本資料は、当社が現在入手可能な情報をもとに作成されております。将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述であり、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があることにご注意ください。
- 本資料は、投資家の皆様の当社への理解を深めていただく目的で作成・開示したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」は 2027年6月に開示する予定です。

世界の「生きる」に 届く技術を。

ペルセウスプロテオミクスは、病に苦しむ世界中の人々のために、独自の抗体技術を駆使して新しい抗体医薬品の創薬を目指すバイオベンチャーです。

企業理念

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する

- 01** **会社概要**
- 02** **ビジネスモデル**
- 03** **事業内容**
- 04** **当社の強み**
- 05** **成長戦略**
- 06** **リスク情報**
- 07** **サステナビリティ**

01 会社概要

会社概要

社名

株式会社ペルセウスプロテオミクス（略称：PPMX）

設立

2001年2月

事業内容

- 抗体医薬品の創薬・開発
- 抗体研究支援
- 抗体・試薬販売

証券コード

4882

拠点

本社・ラボ：東京都中央区日本橋箱崎町30-1
名古屋ラボ：愛知県名古屋市千種区千種2-22-8

資本金

500百万円*

従業員

35名*（臨時従業員は含まず）

* 2026年3月31日現在



本社入居ビル

創薬

自社基盤技術を用いた画期的な
抗体医薬品の研究開発
(Value Creation)

抗体研究支援

製薬企業や研究機関への技術支援
による、最先端ニーズと知見の吸収
(Data & Insight)

Only One
PPMX

抗体・試薬販売

抗体製品等の販売による、
安定的な収益基盤の構築
(Cash Flow)

取締役



横川 拓哉（代表取締役）

富士フイルム 医薬品研究所長（創薬研究）
同社医薬品事業部次長（臨床開発・事業開発）



小南 欽一郎（テック&フィンストラテジー代表）※

英国王立がん研究所
野村證券、みずほ証券



萩原 真二（研究開発部長）

GSK 生物科学研究部
富士フイルム医薬品・ヘルスケア研究所統括マネージャー



花井 陳雄（島津製作所 社外取締役）※

協和キリン（代表取締役社長、会長）
BioWa, Inc. 社長



棚橋 進（管理部長/事業開発部長）

富士フイルム富山化学 副社長
PDRファーマ 社長

取締役（監査等委員）



松本 尚（イノベーション・エンジン インvestment・パートナー）※

あおぞらInvestment 常務取締役



西垣 扶佐子（UntroD Capital Japan株式会社 顧問（創薬）、 メディカルグローン株式会社 顧問）※

アステラス製薬株式会社 研究本部 主管研究員
株式会社ヘリオス 研究部 マネージャー

技術顧問



石川 冬木

京都大学 副学長
日本学術会議 連携会員



津本 浩平

東京大学 大学院工学系研究科教授
医薬基盤・健康・栄養研究所、
創薬デザイン研究センター長



熊谷 雄二

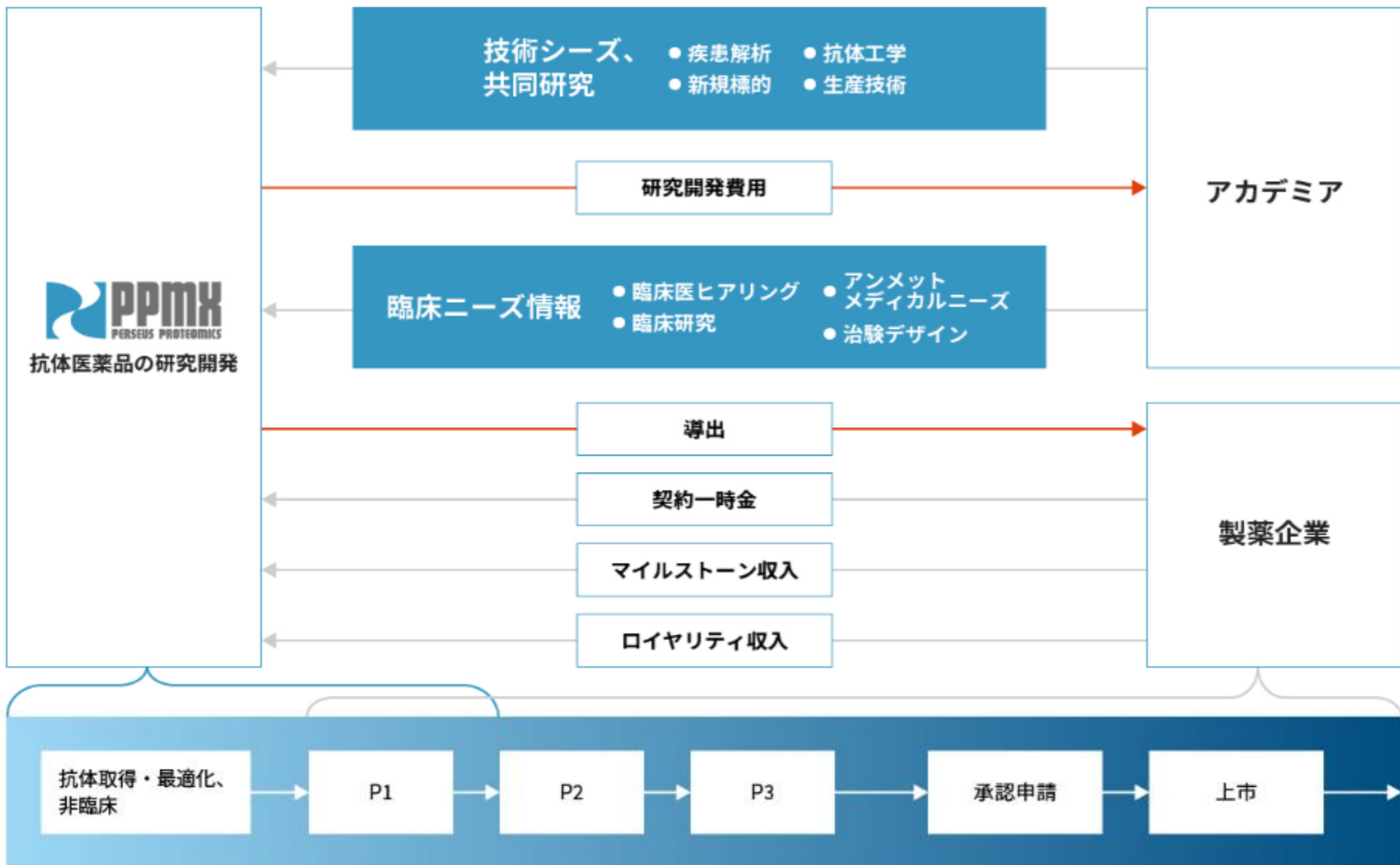
北里大学 名誉教授

※ 非常勤

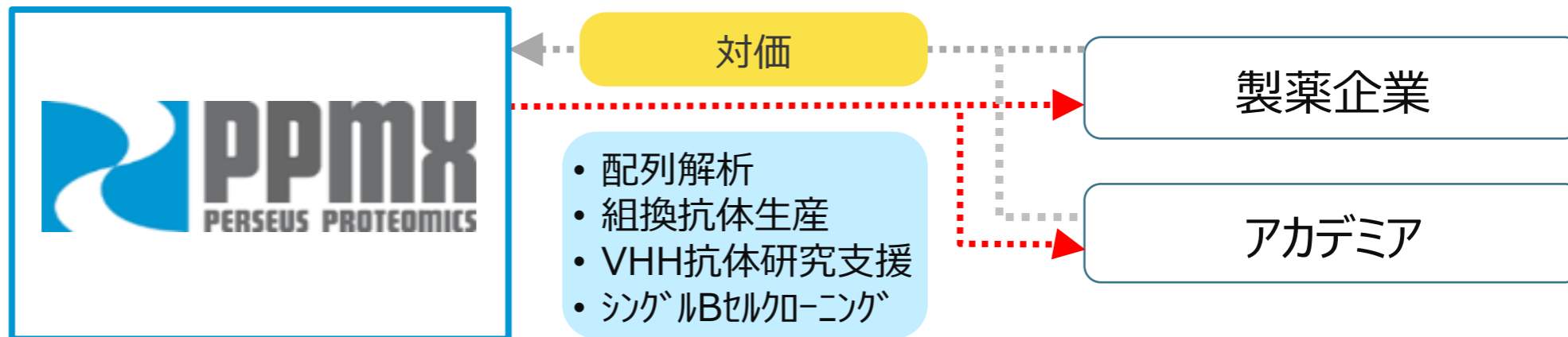
02 ビジネスモデル

ビジネスモデル

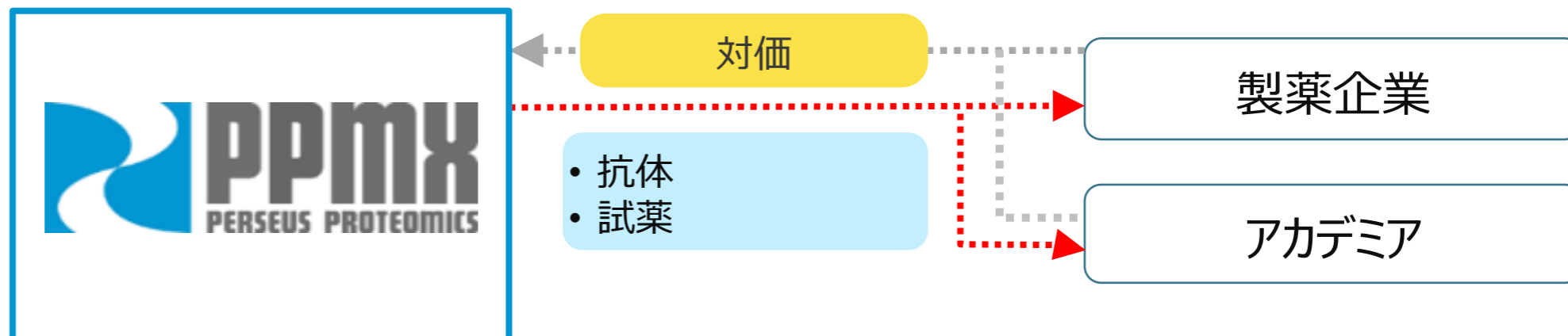
1. 創薬



2. 抗体研究支援



3. 抗体・試薬販売



03 事業内容

1. 創薬

2. 抗体研究支援

3. 抗体・試薬販売

2026年3月期：計画と実績

計 画

1

導出活動：

PPMX-T003 / PPMX-T002

2

臨床開発：

PPMX-T003のアグレッシブNK細胞白血病の
医師主導治験は2026年3月に終了

3

探索研究：

PPMX-T004の予備毒性試験で薬効と毒性
のバランスを最適化、非GLP*毒性試験の開始

4

基盤技術①PPMX抗体ライブラリ2：

パイプライン化・プラットフォームビジネス 展開

基盤技術②高効率シングルBセル^oプラットフォーム技術：
要素技術の連結・検証

実 績

- 各パイプライン導出には至らず、活動継続中
- 2例の登録があり、登録症例数は5例
- 治験期間は2027年3月31日まで延長
- 治験施設として大阪大学病院が新たに参加
- AMED創薬支援事業より助成金1億円獲得
- 計画通り、非GLP*毒性試験を実施中
- Eurus Therapeutics株式会社と共同研究契約締結
- あすか製薬株式会社と共同研究契約締結
- 計画通り、TOKYO戦略的イノベーション促進事業の完了報告書を提出

* GLP：非臨床試験において、試験施設の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)」

開発パイプラインの状況

(PPMX-T004 は、非臨床試験のステージにあるため、探索パイプラインへ移動)

開発コード	標的	対象疾患	創薬研究	非臨床試験	Phase1	Phase2	備考
PPMX-T003	TfR1	真性多血症	導出活動中				
		ANKL ¹⁾	医師主導治験				*
PPMX-T002 (RIT ²⁾)	CDH3	固形がん	治験終了 ³⁾				** 富士フイルム株式会社
			導出活動中 ⁴⁾				

1) アグレッシブ NK細胞白血病 2) 放射性同位体標識抗体 3) RI:⁹⁰Y 4) RI:²²⁵Ac

* AMED 創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業の支援を受けて医師主導治験を実施中

** 当社が創出。富士フイルム株式会社が米国にて進行性固形がん患者さんでの第 I 相試験を実施したが、事業方針の変更により、2022年3月に実施権が返還

導出活動の状況

対応：

- ・自社によるアプローチに加え、今期から医薬品導出を担うコンサルタントと契約し活動を加速

PPMX-T003：

- ・これまで欧米およびアジアの製薬企業やバイオフーマ、またベンチャーキャピタルに対して、本剤導出に向けたアプローチを繰り返し実施
- ・本剤に興味を持つ候補企業を選定し、複数の企業に情報提供
- ・今後は、真性多血症に加え他の疾患への適応拡大を視野に導出活動を推進する予定

PPMX-T002：

- ・これまで数少ない放射性医薬品開発企業に対し、アプローチを繰り返し実施
- ・本剤に興味を持つ企業はある
- ・今後は、最近、放射性医薬品の開発を強化している候補先を中心に導出活動する予定

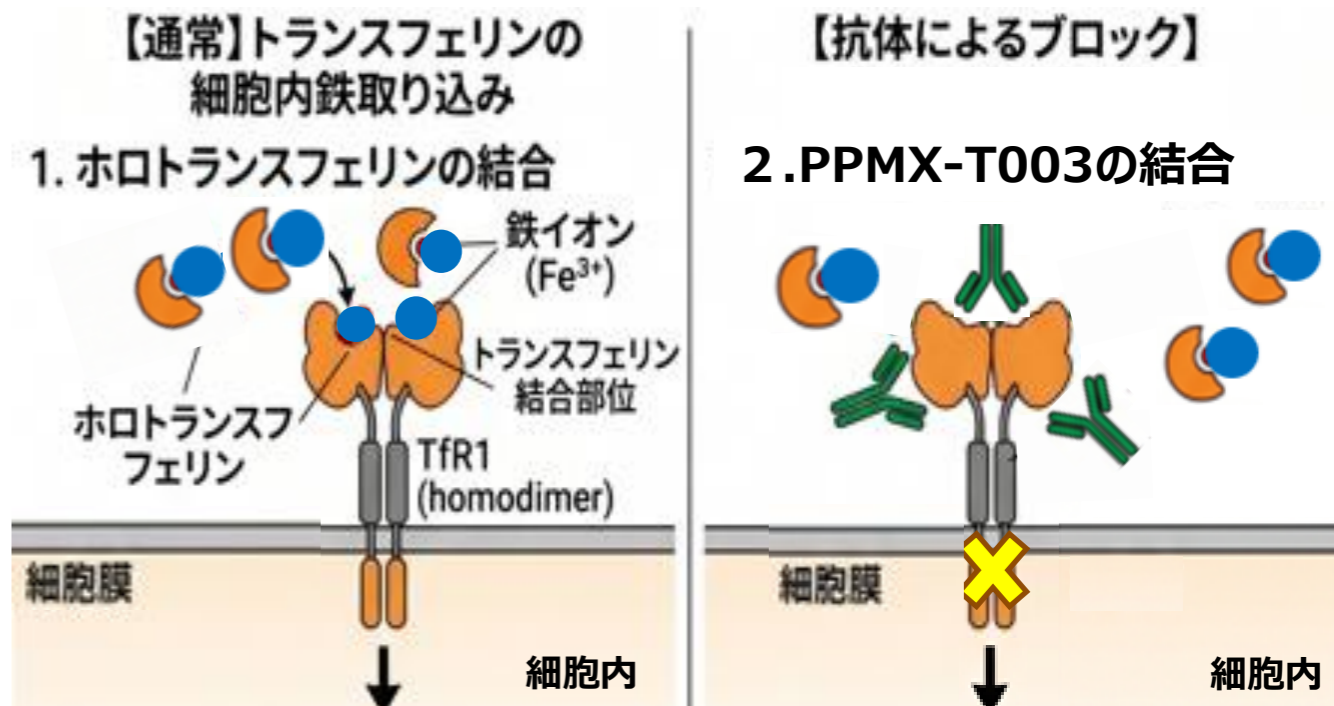
PPMX-T003 : 抗体の特徴と真性多血症領域の進捗状況

抗体の特徴

- ICOS法を取り入れたファージディスプレイ法で取得した完全ヒト抗体
- 標的はトランスフェリン受容体 1 (TfR1)

最新状況

- 第 I 相試験は 2024年6月に終了。現在、論文投稿準備中
- 第 I 相試験に参加した治験責任医師が中心となり臨床研究を実施
- 臨床研究の実施期間は、データ収集の遅れにより 3 ヶ月延長



研究名称：PPMX-T003-CT102試験参加者を対象としたT003の薬力学的効果の推測及び臨床検査値の推移から病態変化の傾向を探索する研究

研究代表医師：関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 主任教授 伊藤 量基先生

実施期間：～2026年6月30日

備考：jRCT * 臨床研究実施計画番号：jRCT1050250129

* jRCT <https://jrct.mhlw.go.jp/>

PPMX-T003 : アグレッシブNK細胞白血病領域の進捗状況

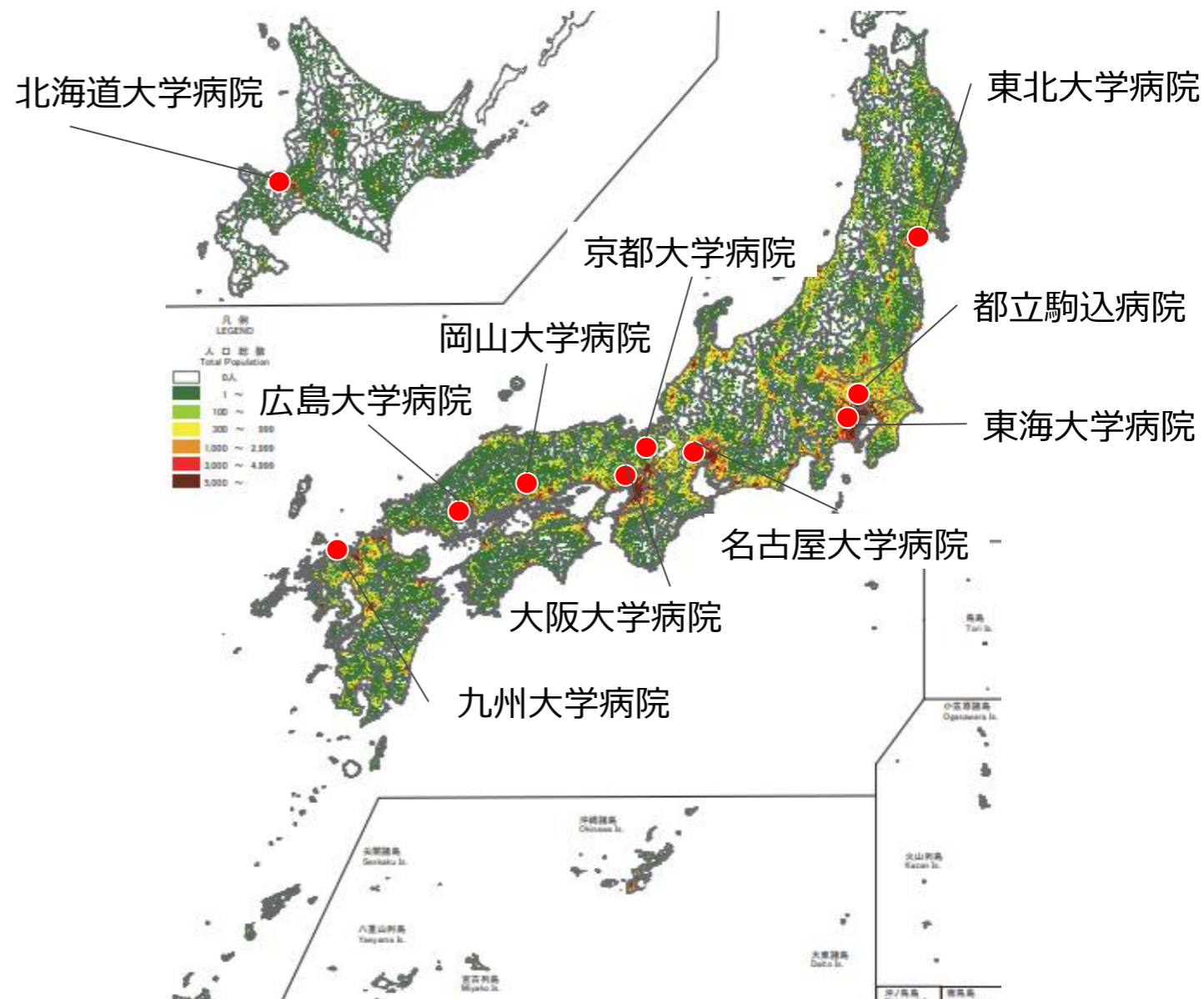
医師主導治験の概要

- 試験デザイン : 非盲検・非対称・用量漸増
- 対象疾患 : アグレッシブNK細胞白血病
- 主要評価項目 : 忍容性及び安全性
- 実施期間 : 2023年4月 ~ 2027年3月
- 治験調整医師 : 広島大学病院 血液内科 安藤 潔 先生
- 治験実施施設 : 全国10医療機関 (右図)
- 備考 : jRCT * 臨床研究実施計画番号 : jRCT2061230008

AMEDの支援

- 令和8年度 創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前
実用化支援事業に採択
- 令和8年度の当該治験費用として、助成金1億円を獲得

* jRCT <https://jrct.mhlw.go.jp/>



「令和2年国勢調査に覆する地域メッシュ統計地図」(総務省統計局)
<https://www.stat.go.jp/data/mesh/pdf/r2sousu.pdf> を加工して作成

PPMX-T002 : 進捗状況

導出活動

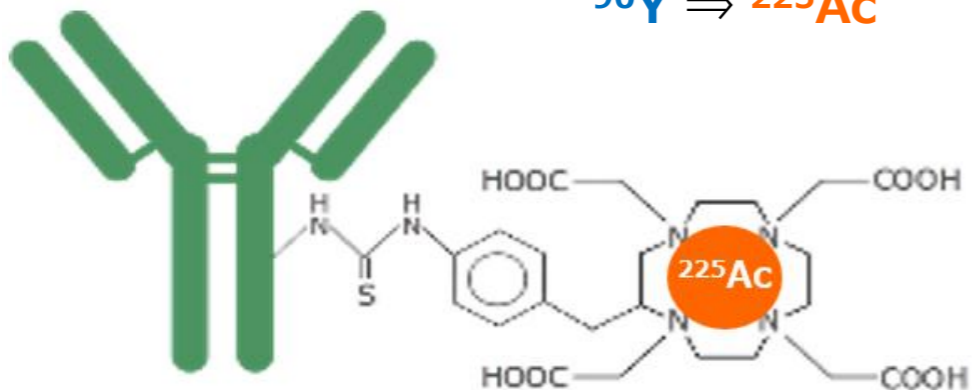
- 国内外のあらゆるネットワークを活用して、導出活動を継続中

構成

抗体

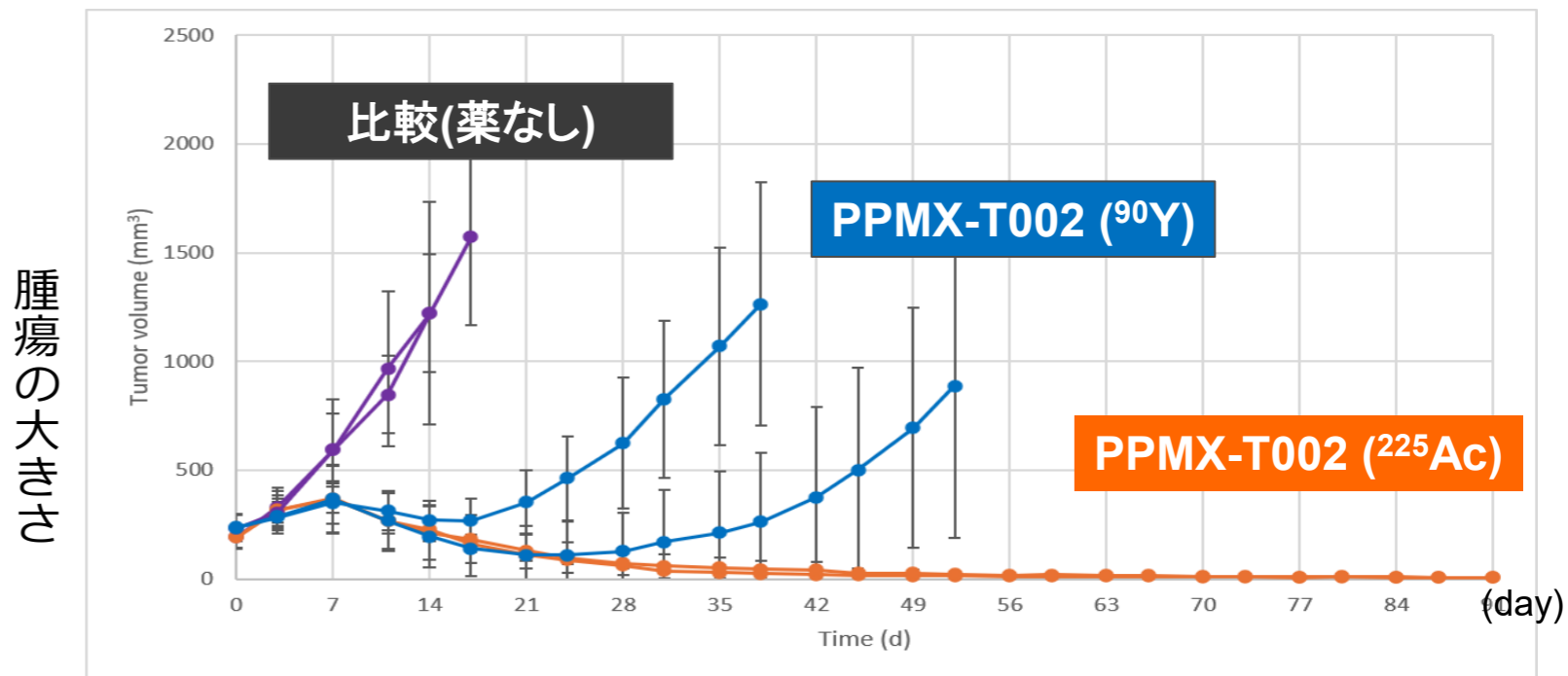
放射性同位体

$^{90}\text{Y} \Rightarrow ^{225}\text{Ac}$



(mm³)

マウスでの実験結果



腫瘍の大きさ

PPMX-T002投与後の日数 第37回 欧州核医学会(EANM)

抗腫瘍効果をさらに高める目的で、放射性同位体 (RI) をイットリウム90 (⁹⁰Y) からアクチニウム225 (²²⁵Ac)へ変更

非臨床試験において抗腫瘍効果を検証

創薬パイプラインの状況

No.	モダリティ	標的	対象疾患	抗体スクリーニング 系構築	抗体取得	抗体最適化	非臨床試験	提携先
1	ADC ¹⁾ (PPMX-T004)	CDH3	固形がん					
2	BsAb ²⁾	非公開	血液がん					中部大学
3	BsAb ²⁾ /ADC ¹⁾	非公開	固形がん					非公開
4	ADC ¹⁾	非公開	固形がん					
5	naked ³⁾	非公開	消化器系疾患					

1) 抗体薬物複合体 2) 二重特異性抗体 3) IgG抗体

PPMX-T004 : 進捗状況

特徴と現状

- CDH3を標的とする抗体薬物複合体 (ADC)
- 本剤はCDH3に強く結合した後、がん細胞内に効率よく取り込まれるように設計
- マウスによる実験で高い抗腫瘍効果を確認 (右図)
- 非GLP毒性試験は、2026/9に終了予定

構成

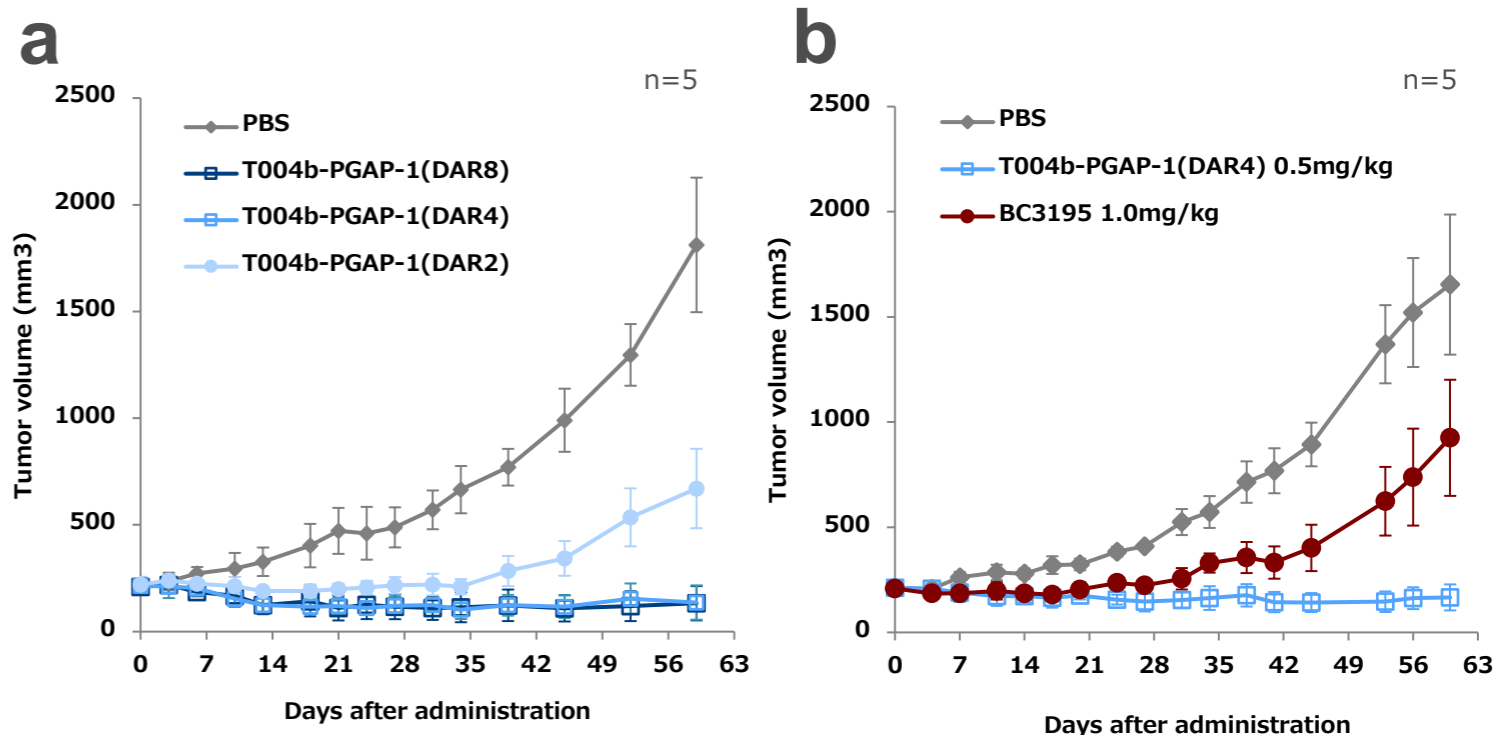


抗体

リンカー

低分子
抗がん剤

PPMX-T004bのDAR*違い (DAR2、DAR4、DAR8) 及び競合との薬効比較の結果



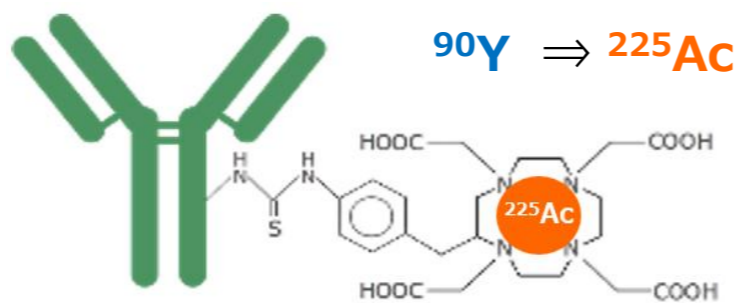
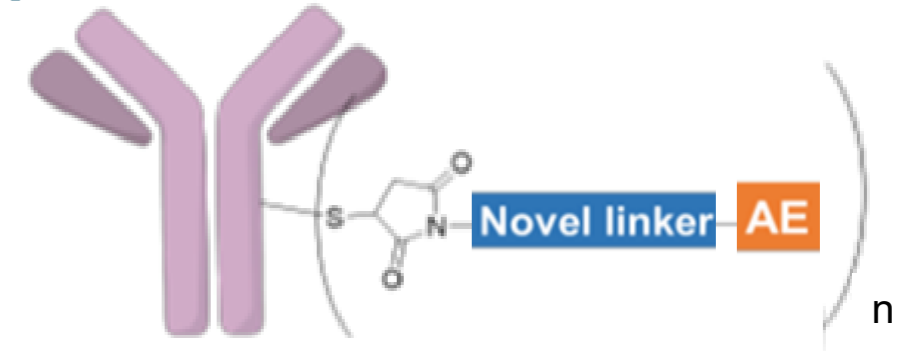
(a) Tumor growth following single dosing at day 0 in BxPC3 xenograft mouse models with different DARs.

(b) Comparison of tumor growth with preceding ADCs.

* Drug Antibody Ratio (抗体1分子あたりの薬物結合数)

第84回 日本癌学会

CDH3を標的とした治療ポートフォリオ

	<p>PPMX-T002</p> <p>放射性同位体 $^{90}\text{Y} \Rightarrow ^{225}\text{Ac}$</p> 		<p>PPMX-T004</p> 
モダリティ	放射性同位体標識抗体 (RIT)		抗体薬物複合体 (ADC)
放射性同位体	イットリウム90	アクチニウム225	
リンカー・ペイロード			UBE株式会社より提供
臨床データ/ 非臨床データ	<ul style="list-style-type: none"> 富士フイルム株式会社が米国において進行固形がん患者を対象として第 I 相試験を実施 抗体が投与された患者のがん組織に集積すること及び安全性が確認された用量で一部症例において腫瘍の縮小を確認 	<ul style="list-style-type: none"> 抗腫瘍効果をさらに高める目的で放射性同位体を変更 動物実験において抗腫瘍効果を検証 	<ul style="list-style-type: none"> 抗体は多くの固形がんに発現しているCDH3に強く結合した後はがん細胞へ効率よく取り込まれるように設計 マウスによる実験で高い抗腫瘍効果を確認
ステータス	導出活動中		非GLP毒性試験実施中

抗体医薬品市場

● 世界の抗体医薬品市場



● 2025年度世界の医薬品売上高トップ10 (新型コロナワクチンは含まない)

順位	名称	売上高 (百万ドル)	適応疾患 / 形態
1	キイトルーダ	31,681	がん / 抗体
2	マンジャロ	22,965	2型糖尿病 / ペプチド
3	エリキュース	22,404	抗血液凝固 / 低分子
4	オゼンピック	18,809	2型糖尿病 / ペプチド
5	デュピクセント	17,741	アトピー性皮膚炎 / 抗体

順位	名称	売上高 (百万ドル)	適応疾患 / 形態
6	スキリージ	17,562	乾癬 / 抗体
7	ダラザレックス / ダラキューロ	14,351	多発性骨髄腫 / 抗体
8	ビクタルビ	14,334	HIV感染症 / 低分子
9	ゼップバウンド	13,542	肥満症 / ペプチド
10	ジャディアンズ	13,350	2型糖尿病 / 低分子

出所 : 「日経バイオテクONLINE」2026年5月7日掲載の情報をもとに自社で一部抜粋して作成. <https://pharma.all.nikkeibp.co.jp/atcl/column/16/011900001/26/04/26/00459/?ST=pb>

03 事業内容

1. 創薬

2. 抗体研究支援

3. 抗体・試薬販売

抗体研究支援の売上高は、6期連続での増加 ラクダ抗体ライブラリを用いた抗体スクリーニング・作製サービスの提供開始

サービス内容

配列解析

組換抗体生産

VHH抗体研究支援

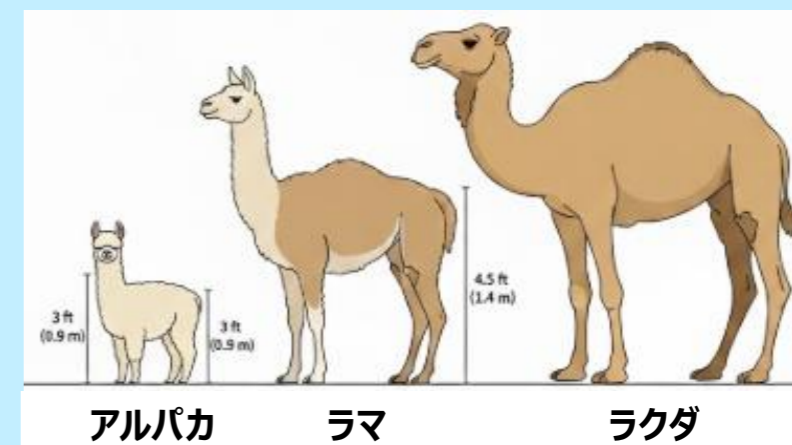
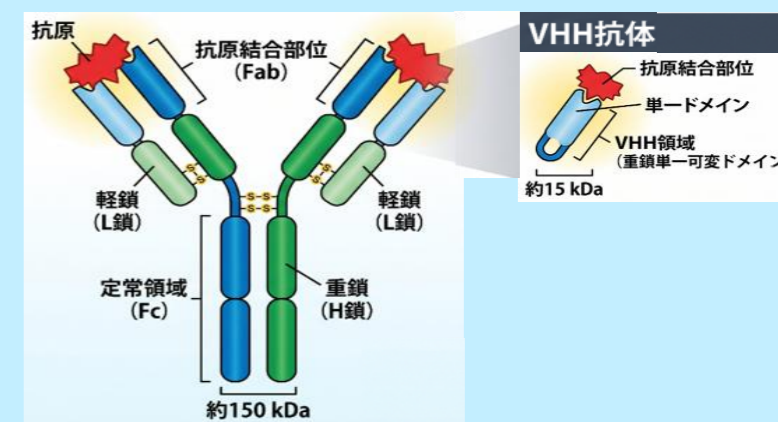
シングルBセルクローニング

ラクダ科単鎖抗体の特徴

- 通常抗体の**1/10**の分子量(15kDa)で生産が容易
- きわめて高い熱安定性
- VHH抗体が多い
 - ラクダ 約70 %
 - ラマ 約45 %
 - アルパカ 約25 %

VHH抗体ライブラリ

- 約20頭のヒトコブラクダから構築した 10^{10} オーダーの多様性
- ナイーブ抗体ライブラリ



03 事業内容

1. 創薬

2. 抗体研究支援

3. 抗体・試薬販売

ヒト核内受容体抗体全48種類を始め、90種類以上の製品を展開
2026年3月期は、新たに研究用抗体の3製品が発売を開始

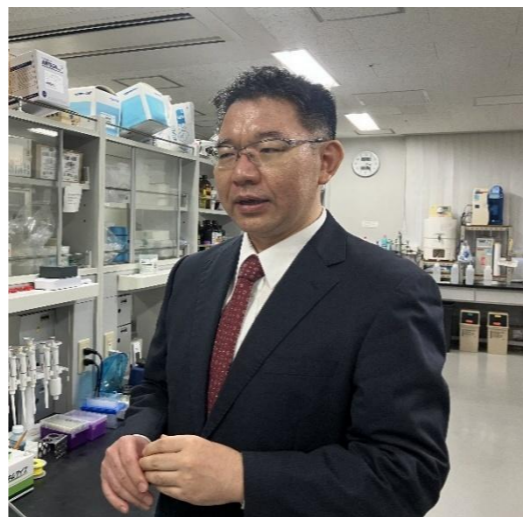
新製品群

抗 GPR87 抗体
(疾患研究用抗体)

抗 Exatecan 抗体
(ADC研究用抗体)

抗 S1PR3 抗体
(疾患研究用抗体)

アカデミアの研究者から高い信頼を得て、実験の精度と成功を確実にサポートする信頼のツールとして活用されています



当社のPPZ0506抗体を用いてErβ*の免疫組織化学染色法を樹立された日本医科大学大学院教授石井寛高先生

*エストロゲン受容体ベータ。全身に広く分布し、エストロゲンと結合して機能する受容体。



当社の抗ADC抗体を活用された東京薬科大学齊藤直希先生が、「JSSX Best Poster Award (Basic Research)」を受賞

04 当社の強み

抗体医薬品開発：標的特定から非臨床試験開始までの詳細工程

1. 標的の特定

1. 標的の特定ステージ

アカデミアや製薬企業を中心に臨床ニーズに関する情報を収集します。

2. 抗体の創出

2. 抗体創出ステージ

標的タンパク質が決定した後、「**ファージ抗体ライブラリ**」を用いて、「**主要なアプローチ**」のいずれか、あるいは複数を走らせて、標的に結合する「生の抗体」を無数に生み出します。

3. リード抗体の選定

3. リード抗体の選定ステージ

上記の方法で得られた数百～数千の抗体候補（ヒット抗体）から、医薬品としての素質を持つ「リード抗体」を数十個～数個に絞り込みます。

4. 抗体工学による最適化

4. 抗体工学による最適化ステージ

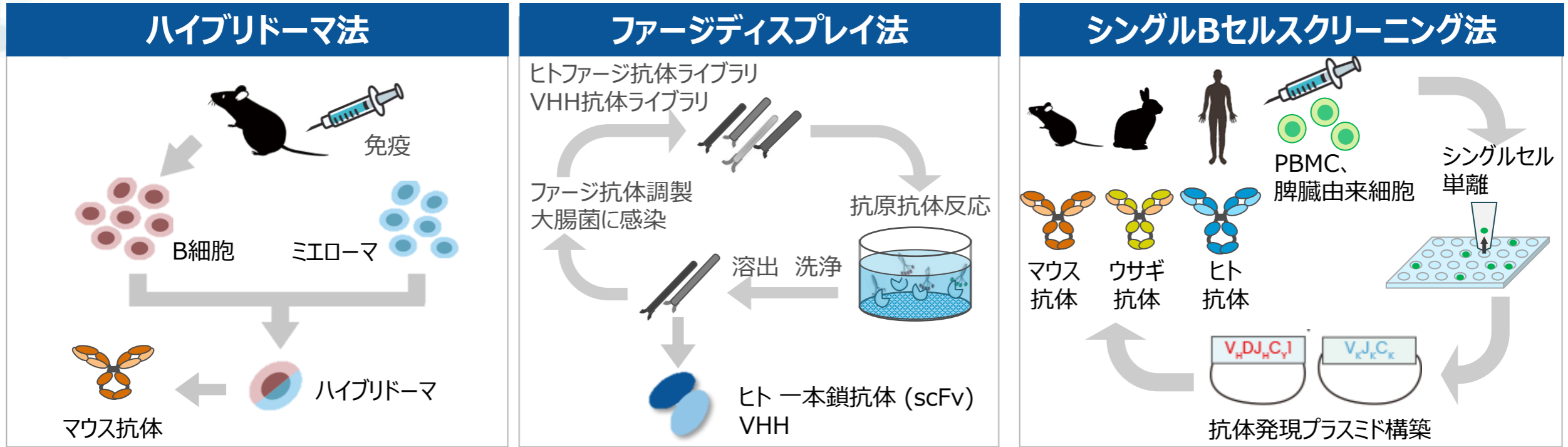
選ばれたリード抗体を、人間の体に投与できるよう「化粧直し」し、さらに武器を磨くステージです。

5. 生産細胞構築 製剤検討

5. プロセス開発 & 製造株構築ステージ

ここが非臨床試験の直前であり、非常にタフなフェーズです。

当社の強み①：様々な抗体取得技術を保有



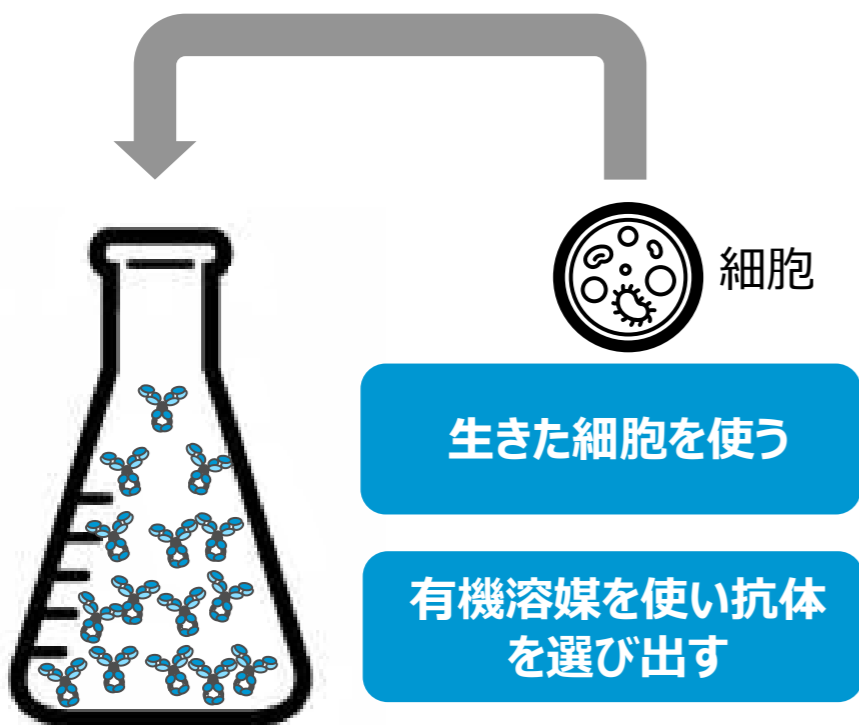
- 特徴**
- 手法が成熟
 - 生体内で親和性が向上
 - 低コスト
 - 複雑な抗原に対する抗体は取得困難

- ヒト抗体を取得
- 動物が不要
- 生物毒性を考慮しなくてよい
- ライブラリ作製に熟練が必要

- ヒトや動物の抗体をスピーディに取得
- B細胞の多様性を維持
- 機械は高額
- 工程全体の操作に熟練が必要

さまざまな手法を駆使して最適な方法で抗体を取得

当社の強み② : ICOS法



ヒトファージ抗体ライブラリ

課題

従来のスクリーニング方法では細胞に対して非特異的に反応する抗体が残ってしまう

解決法

ICOS法 : 当社独自の抗体スクリーニング技術

有機溶媒を用いる独自の方法で、生きた細胞を使いつつ非特異抗体を除去する

特徴

- 生きた細胞を使うことで複雑な形状の蛋白質にも対応。
- 様々な細胞で抗体取得の実証済み。

正しい立体構造を標的にすることで機能阻害抗体を効率的に単離

当社の強み③：多様なファージ抗体ライブラリ

ヒトファージ抗体ライブラリ

抗体ライブラリ

特徴

配列解析方法

PPMX抗体ライブラリ1

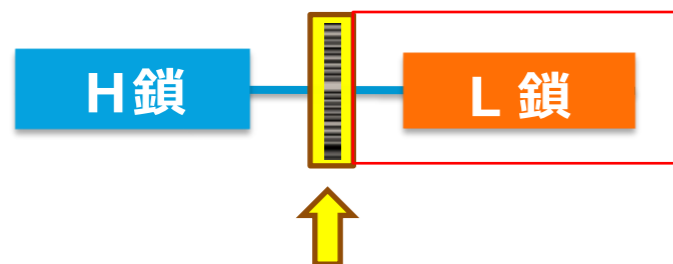


- すべてヒト由来の抗体なので安心。
- H鎖重視のライブラリ構成で親和性の高い抗体を取得できる。
- これまでに優れた抗体の取得実績 (PPMX-T003)

解析数 ➡ 数百クローン



PPMX抗体ライブラリ2



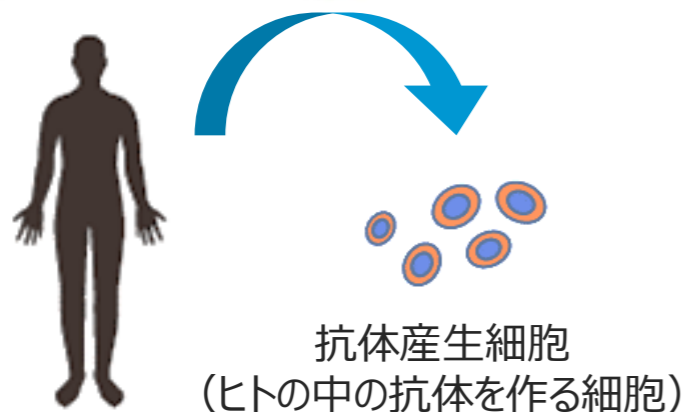
L鎖配列に対応したID-Tagを挿入

- ID-Tagで標識された膨大な抗体コレクション
- 抗体のH鎖に着目した抗体取得手法
- 膨大なデータを用いて抗体取得の効率化を実現。機械学習にも利用

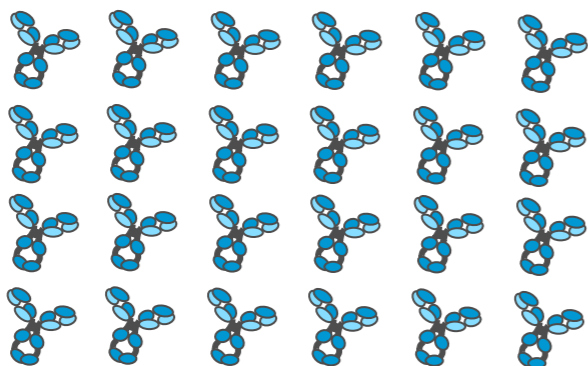
解析数 ➡ 数万～数百万クローン



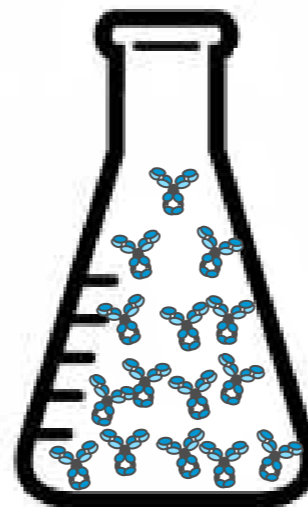
ヒトファージ抗体ライブラリ



人工的に抗体を作製



ヒトファージ抗体ライブラリ
1,000億種類の抗体集団



ヒトファージ抗体ライブラリ

ヒトファージ抗体ライブラリを使ってできること



特定の条件に合致した集団をすくい上げる。



任意の相手に結合する抗体を釣り上げる。



特殊な相手に結合する抗体を見つけ出す。

多くの抗体を含んだライブラリから効率的に抗体を取得

当社の強み③：多様なファージ抗体ライブラリ

VHH抗体ライブラリ

抗体ライブラリ

特徴

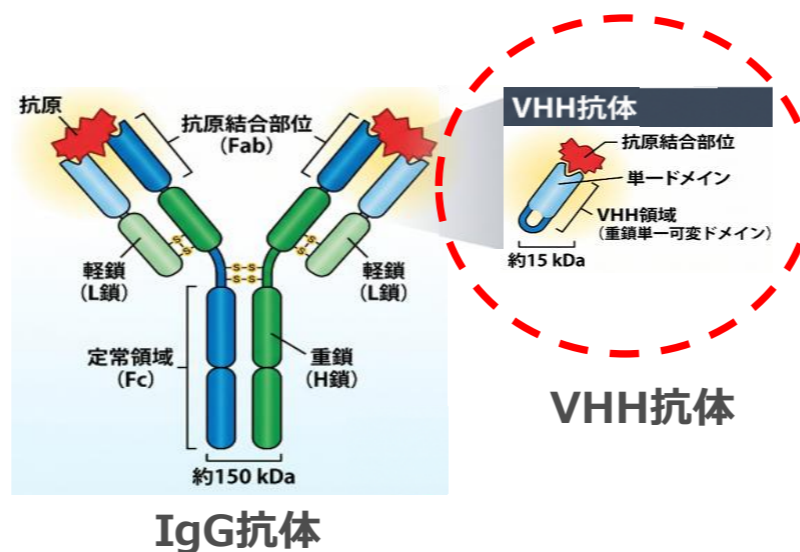
PPMX VHH抗体ライブラリ

- 約20頭のヒトコブラクダから構築した 10^{10} オーダーの多様性
- ナイーブ抗体ライブラリ

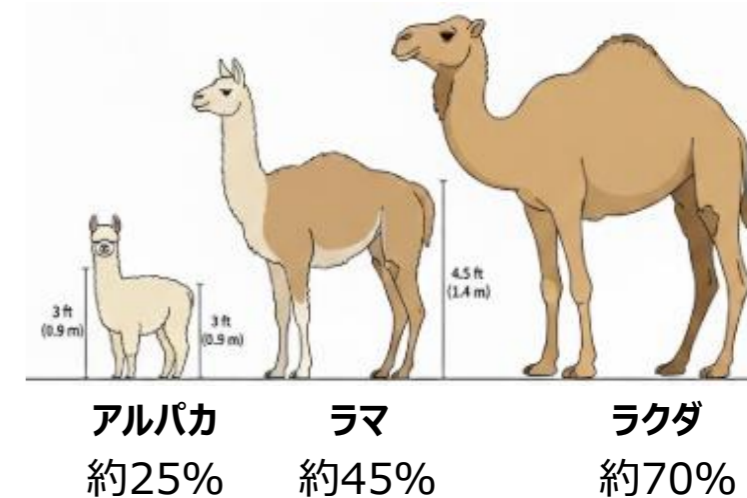
ラクダ科単鎖抗体の特徴

- 通常抗体の**1/10**の分子量で生産が容易
- きわめて高い熱安定性
- VHH抗体の割合が多い

VHH抗体のイメージ



VHH抗体の割合



当社の強み④：機械学習による抗体創薬

News Release



2025年4月18日

会社名 株式会社 ペルセウスプロテオミクス
代表者名 代表取締役社長 執行役員 横川 拓哉
(コード番号：4882 東証グロス)
問合せ先 取締役執行役員 管理部長 鈴木 信一
(TEL. 03-6264-8224)

機械学習による抗体創薬に関する東京科学大学との共同研究開始のお知らせ

当社は、このたび国立大学法人東京科学大学（以下「東京科学大学」）との間で、機械学習による抗体創薬に関する共同研究を開始しましたのでお知らせいたします。

当社は、従来よりファージディスプレイ技術とAIを組み合わせ、抗体ライブラリからの抗体取得工程のハイスループット化や効率化の研究を進めております。本共同研究は、東京科学大学情報理工学院の大上雅史先生の有する計算科学を用いた解析技術を当社のユニークな抗体ライブラリと組み合わせることで、目当ての抗体を迅速に選び出すことを目的とします。大上先生の研究グループは、計算化学や機械学習による抗体配列の解析と選抜を担い、当社は予測された抗体の親和性・安定性・生産性等の実験を行いデータを提供します。それぞれの強みである生物学的実験（Wet）とコンピュータ解析（Dry）のシナジー効果によって、機械学習の精度向上及び抗体選抜工程の効率化が期待されます。

本共同研究により、当社は難易度の高い抗原に対する抗体医薬品の創出をさらに推進いたします。なお、本件による今期業績への影響はございません。

以上

東京科学大学と機械学習による抗体創薬に関する共同研究を開始

東京科学大学情報理工学院の大上雅史先生の有する計算科学を用いた解析技術を当社のユニークな抗体ライブラリと組み合わせることで、目当ての抗体を迅速に選び出すことが目的

生物学的実験（Wet）とコンピュータ解析（Dry）のシナジー効果により、機械学習の精度向上及び抗体選抜工程の効率化を期待



当社は難易度の高い抗原に対する抗体医薬品の創出をさらに推進

当社の強み⑤：主要特許

	特許権の名称	出願番号	登録年月日 登録番号	存続期間 満了日	内容・特徴
PPMX-T002	放射性金属標識抗カドヘリン抗体	特願2011-553868 PCT/JP2011/052759	2013年10月4日 特許第5380553号	2031年2月9日	癌細胞特異的に高集積する放射性金属標識抗カドヘリン抗体、さらにこれを含有する癌治療薬及び癌診断薬に関するもの
	緩衝剤を含む組成物	特願2018-534445	2022年7月12日 特許第7104274号	2037年8月21日	放射性金属標識キレート化ターゲティング剤の調製に使用される技術に関するもの
PPMX-T003	トランスフェリン受容体抗体	特願2012-066535	2016年5月27日 特許第5939855号	2032年3月23日	抗 T f R 抗体を含む医薬組成物、特に悪性腫瘍の治療に関わる医薬組成物に関するもの
	トランスフェリン受容体を特異的に認識できる抗体	特願2013-514005 PCT/JP2012/061676	2016年8月5日 特許第5980202号	2032年5月7日	
	トランスフェリン受容体を特異的に認識できる抗体	特願2014-545766 PCT/JP2013/080249	2017年9月22日 特許第6212497号	2033年11月8日	
	細胞内への鉄の取り込み阻害剤	特願2018-217548 PCT/JP2019/045227	2023年12月25日 特許第7410051号	2039年11月19日	
	多血症治療薬	特願2019-161344 PCT/JP2020/033561	2024年10月3日 特許第7560815号	2040年9月4日	
	癌性腹膜炎の治療薬	特願2020-083801 PCT/JP2020/044185	2025年1月20日 特許第7622926号	2040年11月27日	
	抗トランスフェリンレセプター抗体の薬効又は感受性の判定方法	特願2020-170478 PCT/JP2021/037296	2026年6月10日 特許第7875530号	2041年10月8日	
PPMX-T004	高い内在化能力を有する抗CDH3抗体	特願2012-540965 PCT/JP2011/074958	2016年9月16日 特許第6006640号	2031年10月28日	薬物を修飾した抗CDH3抗体、特に悪性腫瘍の治療に関わる医薬組成物に関するもの
	抗CDH3(P-カドヘリン) 抗体の薬剤コンジュゲート	特願2014-508962 PCT/JP2012/059236	2017年3月24日 特許第6113717号	2032年4月4日	
	抗CDH3ヒト化抗体、その薬剤コンジュゲート、及びそれらの使用	特願2015-500306 PCT/JP2014/053473	2018年8月3日 特許第6377601号	2034年2月14日	

● PPMX-T002：上記の他に1件特許出願中（うち、未公開特許1件）

● PPMX-T003：上記の他に6件特許出願中（うち、未公開特許2件）

● PPMX-T004：上記の他に2件特許出願中（うち、未公開特許2件）

● 基盤技術：上記の他に5件特許出願中（うち、未公開特許5件）

05 成長戦略

事業展開①：抗体取得技術とAI創薬の融合による技術の深化

実験科学による戦略

基盤技術

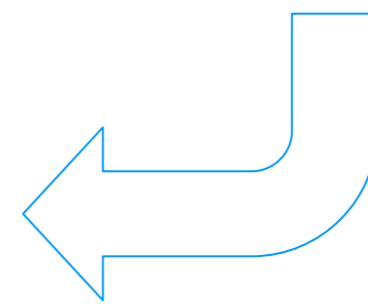
- ・ハイブリドーマ
- ・ファージディスプレイ
- ・シングルBセル



AI による強化

萌芽技術開発

- ・抗体を新しく創造
- ・親和性を改善
- ・物理的性質を改善



**抗体取得・抗体最適化を効率化
創薬プロセスを短縮**

創薬プロセス

抗体スクリーニング系
構築

抗体取得

抗体最適化

非臨床試験

事業展開②：協働による拡大

自社リソース

- ・PPMXファージ抗体ライブラリ(ヒト、VHH) 及びICOS法を強みとした抗体取得技術
- ・がん対象の抗体評価、非臨床、臨床開発経験

協働による
拡大・拡張

①対象疾患の拡大：
協働で医療ニーズ把握、開発経験獲得
新たな疾患領域へ

②モダリティの拡張：
協働で新たなモダリティへの応用
ADC¹⁾、AOC²⁾、CAR-T³⁾ 等へ

当社 技術・
スキル・経験

+

協働先 技術・
スキル、経験

1) 抗体薬物複合体 2)抗体オリゴヌクレオチド複合体 3)キメラ抗原受容体T細胞

事業展開③：当社のカテゴリー

創薬 当社の中核

自社リソース創薬

- ・がん等の疾患を対象
- ・抗体医薬品を研究開発、導出

新たな疾患

新たなモダリティ

協働による
創薬事業拡大

将来
大きな成長

抗体研究支援

- ・研究機関、企業等へ
- ・抗体に関する研究を支援

共同研究

安定的
収益源

抗体・試薬販売

- ・研究機関、企業等に
- ・各種の抗体・試薬を販売

2027年3月期：計画

- 1 導出活動：**
PPMX-T003 / PPMX-T002：導出活動を継続
- 2 臨床開発：**
PPMX-T003：アグレッシブNK細胞白血病の医師主導治験を終了（2027/3）
PMDA相談を実施
- 3 探索研究：**
PPMX-T004：非GLP¹毒性試験を終了（2026/9）
抗体MCB²の製造に着手（2027/1）
- 4 基盤技術①**
PPMX抗体ライブラリ2：パイプライン化の推進・プラットフォームビジネスとして事業拡大

基盤技術②
高効率シングルBセルプラットフォーム技術：事業化に向けたビジネスモデルの構築

1) GLP：非臨床試験において、試験施設の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)」

2) MCB：マスターセルバンク。製造の起点となる細胞株の凍結保管ロット

2028年3月期までの成長計画

事業課題	FY2027/3	FY2028/3
PPMX-T003	<p>導出活動^{a)}</p> <p>a) FY2025/3を目標に活動していたが導出には至らず、活動継続中</p> <p>ANKL医師主導治験^{b)}</p> <p>b) 2026/3 終了予定であったが、症例登録の遅延により、2027/3 まで延長</p>	<p>オープン申請</p>
PPMX-T002	<p>導出活動^{c)}</p> <p>c) FY2025/3を目標に活動していたが導出には至らず、活動継続中</p>	
PPMX-T004	<p>非GLP¹⁾ 毒性試験</p>	<p>原薬製造（抗体MCB²⁾ の製造・エンジニアリングバッチの製造）</p> <p>GLP¹⁾ 毒性試験</p>
PPMX-T005	<p>標的の評価・検討</p>	
PPMX抗体ライブラリ2	<p>パイプライン化の推進・プラットフォームビジネスとして事業拡大</p>	
高効率シングルBセルプラットフォーム技術	<p>事業化に向けたビジネスモデル構築</p>	<p>事業拡大</p>

1) GLP：非臨床試験において、試験施設の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)

2) MCB：マスターセルバンク。製造の起点となる細胞株の凍結保管ロット

06 リスク情報

認識する主要なリスク 1/2

リスク項目	概要	顕在化の可能性	顕在化の時期	顕在化した場合の影響度	リスク対応策
医薬品の研究開発、医薬品業界 新薬開発の不確実性	医薬品開発の成功確率が低いこと、研究開発期間が長期間を要すること等により、投資回収額が回収できない可能性	中	中長期	大	当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
医薬品の研究開発、医薬品業界 競合	競合他社の有する医薬品候補物質の研究開発が、当社のもと同じ疾患領域で先行した場合、当社優位性が低下する可能性	大	中長期	大	潜在的競合品に対しては、学会情報等から把握し当社品の位置づけを明確にします。
医薬品の研究開発、医薬品業界 外部委託先との連携	戦争・紛争等に伴う治安不安、自然災害・重大な感染症の流行等により、原薬の安定供給や適時なサービス業務を受けられない可能性	中	不明	中	地域の異なる複数の委託先を選択できるようにし、リスク低減を図ってまいります。
事業遂行 特許	優れた技術が出現した場合、当社の特許技術が陳腐化する可能性	中	中長期	中	新たな技術、次期パイプライン候補の研究開発に取り組み、新しい特許の獲得に取り組んでおります。 物質特許に加えて、薬剤の機能や治療用途と組み合わせた特許等の出願補強で当社特許を強化します。
	他社の特許・発明により、当社の特許が無効化する可能性	中	中長期	大	
	他国において申請した特許が取得・登録されない可能性 当該技術が利用される可能性	中	中長期	中	
事業遂行 災害、感染症等の発生に関する不確実性	研究所の一時閉鎖等の不測の事態が発生した場合や、重大な感染症の流行等が発生した場合 研究開発が遅延する可能性	中	不明	中	災害発生や感染症等が流行した場合の事業継続計画(BCP)を定めており、これに基づいて行動し、リスク低減を図ってまいります。

認識する主要なリスク 2/2

リスク項目	概要	顕在化の可能性	顕在化の時期	顕在化した場合の影響度	リスク対応策
パイプライン PPMX-T002	放射性医薬品開発会社の導出先を得られない可能性 開発が遅延または中止となる可能性	中	中長期	大	複数の候補企業と交渉し、最適な導出先を選択してまいります。また、当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
パイプライン PPMX-T003	製薬会社等の導出先を得られない可能性 開発が遅延または中止となる可能性	中	中長期	大	
パイプライン 探索パイプライン（PPMX-T004他）	次期パイプライン開発が進まない可能性	中	中長期	大	
業績等に関するリスク 資金繰り	資金の確保が進まない可能性	中	中長期	大	パイプラインの導出による収入の確保、適切なタイミングでの新株発行を通じ、資金基盤の強化に努めてまいります。
業績等によるリスク グロース市場の上場維持基準未達	上場廃止となる可能性	中	中長期	大	導出活動、研究開発を推進し、IR活動の充実により株価向上を図ります。

※ 有価証券届出書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。

※ その他のリスクは、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

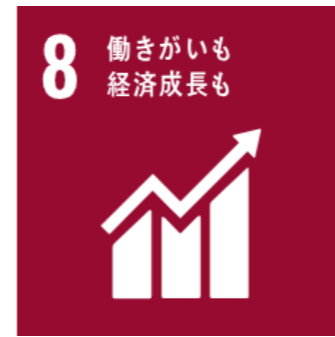
07 サステナビリティ



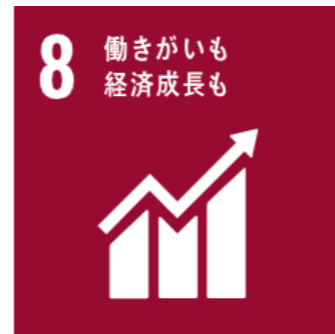
当社は、企業理念「最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する」の下、独自の抗体技術を駆使して、新しい抗体医薬品の開発を目指しています。中核である創薬を積極的に展開することで、有用で安全な抗体医薬品を開発・提供し、持続的成長による企業価値の向上と事業活動を通じた持続的な社会の実現に取り組みます。国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業と連携し、革新的な医薬品の創造に努めます。



- 廃棄物処理の徹底
廃棄物について、法令に則り適切に処理しています。
- 環境負荷の低減
エリアごとの照明のオン・オフの徹底や、サーキュレータの活用などで、省エネに努めています。研究用資材（プラスチック）については、SDGsに取り組む企業の製品を積極的に購入しています。製品発送に関しては、まとめて発送できるものは極力まとめ、輸送回数・梱包資材の使用量低減に努めています。梱包資材についても、製品に直接触れない外側の緩衝材等を再利用し、お取引先の利便性と製品の品質が保たれる範囲でできることを行っています。



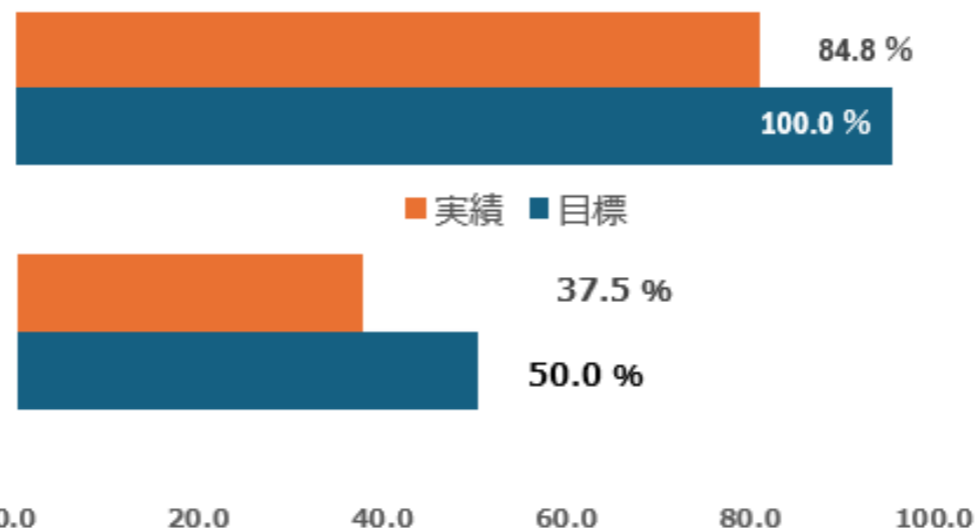
- 従業員の多様性と働き甲斐（エンゲージメント）
年齢・国籍・人種・性別を問わず優秀な方を採用しています。2025年度末時点で外国籍社員 3 名が勤務しております。
- 社員の男女比率は男性46%、女性54%です。（2026年3月31日時点）
- 健康・安全な職場環境
安全総点検を年に1度実施して、健康で安全な職場環境の維持に努めているほか、安全衛生委員会、防災安全委員会、実験室安全委員会等の各委員会による定期的な社員教育や職場環境の継続的な整備を行っています。
また、2026年3月期の有休取得率は70.1%と、厚生労働省の2025年調査結果の66.9%を上回っており、休暇を取りやすい職場環境だと考えております。
- 柔軟な働き方
コアタイムのないフレックスタイム制や、在宅勤務制度を活用し、一人一人がワークライフバランスの最適化を図っています。



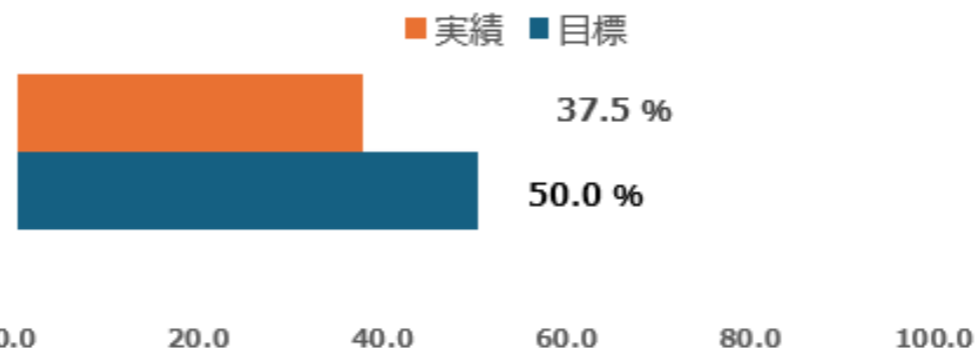
- 女性活躍推進

女性管理職比率、男女の賃金格差は以下のとおりです。今後の目標達成に向けて継続的に取り組んでまいります。

男女の賃金格差 (2026年3月度)



女性管理職比率 (2026年4月1日時点)



- 次世代教育

2025年も昨年に引き続き医療系を進路として考えている高校生の会社訪問を受けました。今後もこうした高校生や中学生の会社訪問を受け入れ、直接的に医療に関わる以外にも様々な選択肢があることを、学生の皆さんに知っていただければと考えています。



基本的な考え方

当社は世界の医療に貢献していくというミッションの下、株主をはじめとしたステークホルダー（従業員、取引先、罹患者、債権者、地域社会等）の皆様の利益を重視した経営を行うことが当社の使命であると考えております。そのためには、当社事業が安定的かつ永続的な発展を果たすことが不可欠であり、このような発展の基盤となる経営の健全性及び透明性の向上を目的とするコーポレート・ガバナンスの強化は重要な経営課題であると認識し、積極的に取り組んでおります。

当社のガバナンス体制

当社は監査等委員会設置会社であり、取締役の活動状況を監査しやすい体制となっております。また、社外取締役を委員長とする任意の報酬委員会も設置し、取締役の報酬について協議し、適正な報酬となるよう取締役会に提言を行っています。

社長を委員長とするサステナビリティ委員会では、当社の重要リスクの分析を含む幅広いサステナビリティ関連事項を討議します。これを元に安全衛生委員会や情報セキュリティ委員会などの各委員会が立案・実行した対策を評価し、必要に応じて対策を求めることで当社の持続的な成長を推進しております。

コンプライアンス

各種情報管理規程の周知徹底や定期的な研修等により、役員・社員一人一人がコンプライアンスを遵守した上で事業を推進しております。

A large, abstract network diagram occupies the left and center of the page. It consists of numerous blue circular nodes of varying sizes, connected by thin, light blue lines. Some nodes are highlighted with a white circular glow. The background is a light blue gradient with faint, larger-scale network patterns.

【お問合せ】

Email: ir@ppmx.com

<https://www.ppmx.com>